

## IV 考察

本稿においては、単胃家畜における 2 種類の食品製造副産物を原材料として用いたエコフィード利用の可能性について検討した調査事例を中心に述べた。本調査結果から、各種食品製造副産物は単胃家畜において従来の給与飼料を代替することが可能であることが示された。代替率は 10% 程度では悪影響が生じることはなく、給与可能である。また、従来飼料との代替が可能であることのみならず従来飼料以上の給与効果があるものも示された。

エコフィードの選定においては事前に副産物の産生量の安定性（季節による変動）、持続性および保存性等について十分な調査が必要であり、給与量および給与方法を決定するための化学分析、人工消化試験等による栄養価等の評価も必要である。もっとも重要なことは、入手から給与までに要する経費、作業時間と畜産物の特性を通常飼料と比較して、経済的に負にならないことを試算および試行してからエコフィードによる飼養を導入する必要がある。本調査で行った評価プロセス、すなわち①原材料入手のための発生量等の調査、②原材料の化学分析と実験室内での消化性試験、③調整した飼料の家畜への給与試験、という一連の調査試験を行うことにより、効率的で失敗のないエコフィードの導入が可能であると考えられる。